

日本臨床外科学会 国内外科研修報告

北里大学上部消化管外科での研修を終えて

川崎医科大学総合医療センター

小西 貴子

私は2025年1月27日から2月21日までの4週間、北里大学の上部消化管外科チームで国内外科研修を行いました。この貴重な機会をいただいた日本臨床外科学会の万代恭嗣会長、国内外科研修委員会の高山忠利委員長に深く感謝申し上げます。また、研修を快く受け入れてくださった比企直樹教授をはじめ、研修中にご指導いただいた熊谷厚志先生、忙しい中でも私に声をかけ、手術を快く見学させてくださった医局の先生方に心よりお礼申し上げます。

研修中は、主に手術見学を中心に回診やカンファレンスにも参加し、術後管理や重症管理について多くの学びを得ることができました。現在勤務している施設ではダビンチが大腸癌手術にしか導入されていなかったため、今回の研修を通じて上部消化管領域におけるダビンチ手術の活用について学びたいという思いがありました。北里大学では症例が豊富で、特に胃癌や食道癌におけるダビンチ手術を比較的若い世代の医師が中心となって行っている姿に大変感銘を受けました。手術の手順は高度に確立されており、安全かつ効率的な手術が実践されていることを目の当たりにし、私自身も技術や知識の向上に対する強い意欲を新たにしました。

また、研修中には熊谷先生から直接、胃切除術に関する指導を賜ることができました。先生は手術の進行において常に患者の安全と手術の精度を最優先に考え、その姿勢に深く感銘を受けました。特に術中における解剖の把握や、合併症の予防に関するアドバイスをいただき、今後の手術に大いに役立てていきたいと考えています。熊谷先生のご指導により、私自身の外科医としての技術が一層深まったと感じており、この貴重な経験に心から感謝申し上げます。

また、比企先生と熊谷先生には、北里大学が主催した2025年JSPEN学会にもご招待いただきました。学会では新しい試みが盛り込まれており、非常に新鮮で楽しい経験となりました。第一会場では、ステイブ・ジョブズ氏のプレゼンテーションスタイルを模した新しい形式が採用され、従来の学会とは一線を画すワクワクした雰囲気を楽しむことができました。アンサーパッドセッションでは、様々な病態における栄養治療について多職種でリアルタイムにディスカッションが行われ、その内容に触れることができました。これまで、日々の診療において栄養治療を自身の浅い経験や知識で何となく行っていたことが多かったのですが、学会で得た新しい知見により、エビデンスに基づいた適切な治療を行わなければならないと強く感じました。準備段階から当日の運営まで、日々の診療でお忙しい中でも十分に配慮が行き届いており、学会は大変盛況に幕を閉じ、参加者全員が充実した時間を過ごせたことと思います。全く異なる環境での研修は非常に刺激的でした。各施設には独自の工夫や手技の違いがあり、それを学ぶことができたのはとても貴重な経験でした。常に患者に最良の結果を提供するために努力を惜しまず、また常に進歩を目指していることが強く伝わってきました。このような環境で研修を受けたことにより、臨床実践における手術の安全性や効率性、患者中心の治療法、そして新しい治療法に対する柔軟なアプローチの重要性を再認識しました。この経験が、私の今後の外科医としての成長に大いに寄与するものと確信しています。今後は、研修で得た知識をしっかりと活かし、常に学び続け、より良い治療を提供できるよう努力していきたいと考えています。

最後に、今回私をご推薦いただいた川崎医科大学総合外科学教室の山辻知樹教授に感謝申し上げます。

また、快く研修へ送り出してくださり、4週間不在の間、大変ご迷惑をおかけしました先生方にも感謝申し上げます。

